

QUALIPHY バージョン 8.8 リリースノート 2019年4月

新製品：

QPHY-PCIE5-TX-RX

- レシーバ試験校正にアンリツMP1900A SQA-Rを使用する、ベース仕様に対してトランスミッタおよびレシーバ試験が行えるPCI Express 5.0試験ソリューションを追加

機能更新：

QPHY-Broad-R-Reach

- MATLABコンパイラ・ランタイムが不要となる新しい歪み試験のアルゴリズムを採用

QPHY-PCIE4-TX-RX and QPHY-PCIE3-TX-RX

ALL TESTS

- Sigtest応答が悪い場合の処理を改善
- 最新のSigtestバージョンに対応

PCIE 4.0 TX

- PCI Express4.0用のPLL帯域幅試験のサポートを追加

PCIE 4.0 PLL

- PLL帯域幅試験の結果を理解しやすくして最終レポートの書式をアップデート

PCIE 3.0 LEQ, PCIE 4.0 LEQ

- レスポンス・タイム試験の場合にPrest only/Both Preset&Cursorの選択を追加
- レスポンス・タイム試験の場合にカスタムの垂直ゲイン設定ができるようになりました。

PCIE 4.0 BaseTX

- マニュアルでプリセットをトグルした場合にビットレートの見積もり値を表示する様になりました。

QPHY-USB3.2-Tx-Rx (formerly QPHY-USB3.1-Tx-Rx)

- 最大エラー数に達した後もBER試験を継続する機能を追加
- 最初に有効だったデエンファシス設定があったら校正を完了するように、” Stop on first passing de-emphasis value” を追加
- 使用可能な全てのオプション設定を見ることができるよう” PeRT custom options” 変数をアップデート

QPHY-DisplayPort

- ・ 時間軸において、3.4 HBR3 / HBR2プリエンファシス・レベルおよびイコライゼーション・ペリフィケーション試験を追加

バグ修正 :

QPHY-1000Base-T1

- ・ 保存波形での動作時に波形が見つからない場合、そのファイル名およびパスを表示するようになりました。

QPHY-DDR3

- ・ データがない場合に特定の条件でオシロスコープ・ソフトウェアがクラッシュする場合があったバグを修正。

QPHY-PCIE4-TX-RX and QPHY-PCIE3-TX-RX

PCIE 3.0 TX

- ・ ” Demo mode” が機能しなかった問題を修正

PCIE 3.0 LEQ, PCIE 4.0 LEQ

- ・ システム試験の際にアップストリーム / ダウンストリーム・レーンの指定がPETracerにおいて間違ったレーン表示になる問題を修正。
- ・ 信号パスにスプリッタを必要とする場合にBERT出力振幅の補正を修正。

QPHY-MIPI-DPHY

- $T_{HS-PREPARE}$ の認識と計測の信頼性を向上

QPHY-USB3.2-Tx-Rx (formerly QPHY-USB3.1-Tx-Rx)

- ・ Setupタブにおいて” Instrument” を” User Contolled” として設定したときに、” Ping Source” 変数が適切に構成されなかったバグを修正。
- ・ ” Ping Source” 変数が” User Contolled” に設定されていた場合にクラッシュするバグを修正。
- ・ Setupタブにおいて” Save Waveform Path” を変更した場合、” Save Waveform Path” 変数が適切に構成されなかったバグを修正。
- ・ Eye WidthがmV、Eye Hightがpsで表示されるQPHYウィザードログの誤記を修正。
- ・ JTOL試験において、動作の最初で停止する場合があったバグを修正。
- ・ トリガレベル調整が必要ない場合に稀にオシロスコープ・ソフトウェアがクラッシュする場合があった問題を解決。
- ・ 全ての状況で、87MHzのジッタ追加または100MHzジッタの削除を適切におこなわないスクリプトのバグを修正。
- ・ 最低4divisionの信号が得られない場合に接続のチェックを促す表示を追加。
- ・ 保存波形での動作時、” レガシー” 試験ができないバグを修正。

- TXEQ試験のみ実施した場合に、レポートのチャンネル長表記が” Unknown Variable” と表示される問題を修正。

QPHY-DisplayPort

- レポートのレイアウトの問題を修正。適切なDisplayPort仕様のレイアウトになりました。
- Eyeパターン試験で、swing & preemphasis設定の問題を修正

メモ : QPHY 8.8 は、オシロ スコープのファームウェア 8.8 と組み合わせて使用されるように設計されています。すべてのスクリプトで最も正確なテスト結果を得るためには、最新バージョンの QualiPHYおよび対応したバージョンのファームウェアにアップグレードすることをお勧めします。